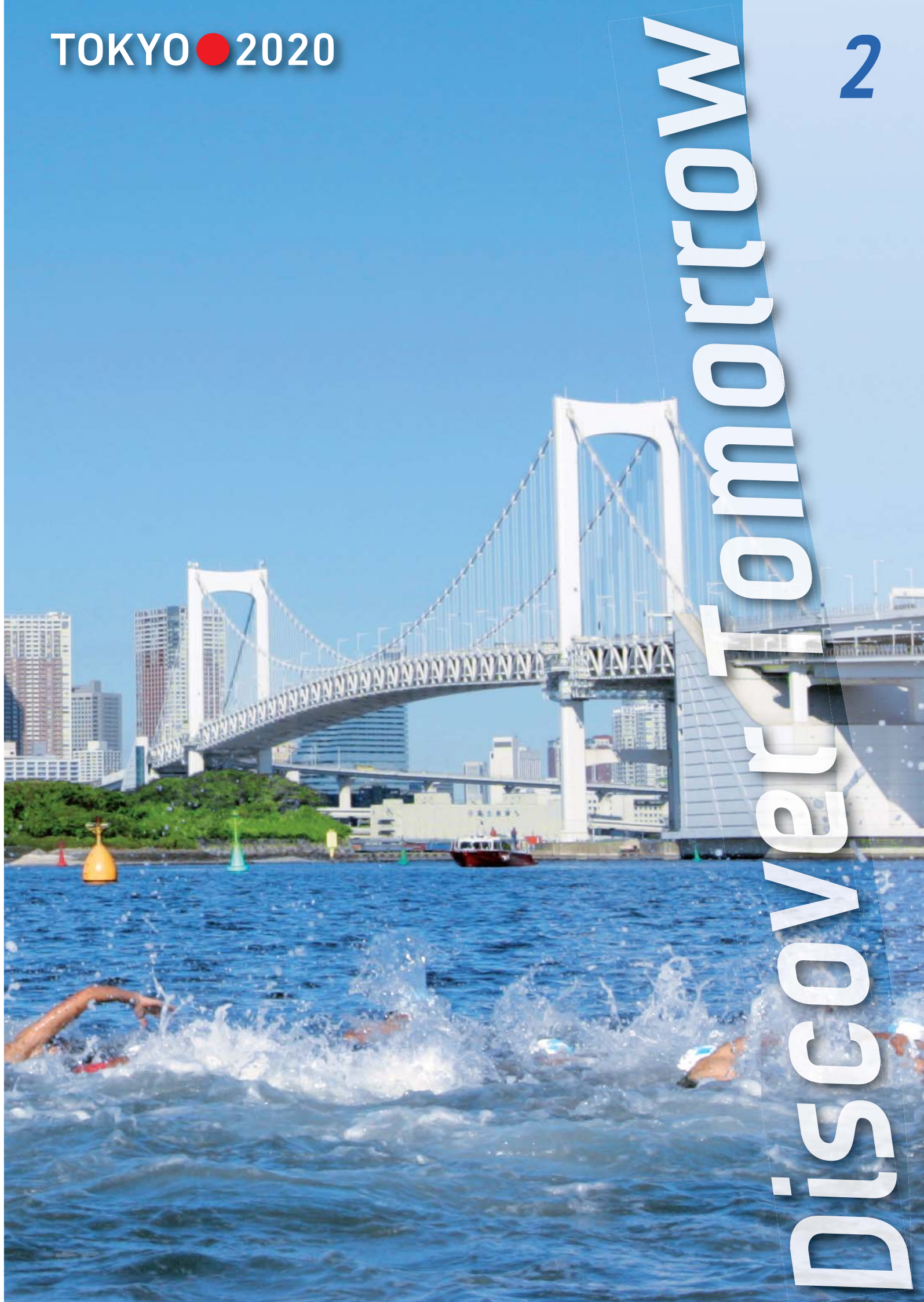


Discover Tomorrow









# 第2巻導入

## 最高の競技大会を開催し、素晴らしいレガシーを残す、ダイナミックな舞台

2020年東京大会は、世界クラスの競技大会を開催し、また、卓越・友情・尊敬というオリンピックの価値を実現するという点において、選手や全てのオリンピック・ファミリーにとって最高の舞台となる。選手村は東京の新たな中心地となる臨海部に設置され、そこを中心に極めてコンパクトな計画が作成されている。この計画に基づき、全ての人が最高の施設を堪能することになる。

会場配置は、2016年大会のために提出した計画に対するIOCからの貴重な提言を反映し、次の2つの厳格な基準を満たすよう計画された。

- ・選手、関係者、オリンピック・ファミリーの移動時間を最小限にすること
- ・会場や都内、さらに世界中のテレビの前でオリンピックの精神に感銘を受ける観客全てに最高の体験を与えること

選手村は地理的のみならず、運営面、コンセプト面において大会の中心となる。選手や関係者は、東京湾や大都会のスカイラインなど見事な景観に囲まれ、ゆったりとした空間で、素晴らしい生活環境を満喫することができる。また、東京の中心に位置し、観光客の間で最も有名で人気の高い銀座も徒歩圏内にあり、文化や食事、ショッピングなどを楽しむことができる。

ヘリテッジゾーンと東京ベイゾーンの2つのゾーンに分けられる競技会場は、他都市のサッカー会場を除けば、85%が選手村から半径8km圏内に位置する。競技会場との往復は簡単かつ迅速に行うことが可能である。選手は、時間や労力を無駄にすることなく、効果的で質の高い準備やトレーニングを行うことができる。

競技会場は、3種類に分類される。第一に、1964年大会で使用された歴史ある会場を改装し、さらに50年以上の耐久性を持たせてレガシーとして残すものである。第二に、新たなレガシーとして建設する恒久的な会場であり、都市の生活にとって必要性の高い施設を新設するものである。最後に、東京湾を臨む眺望のよい海岸沿いに建設される仮設会場であり、報道関係者や選手に絶好のロケーションを提供することとなる。

1964年大会のレガシーとして使用される競技会場の中心となるのは、新しいオリンピックスタジアムであり、世界でも最新鋭の競技会場として生まれ変わる。そこでは、歴史と伝統が、東京の革新性や先端技術と融合し、国内的にも国際的にも新たなスポーツの象徴となる。2020年東京大会の開・閉会式がこの会場で開催されるほか、今後数十年にわたり注目を集めるスポーツイベントが開催される予定である。このほかにも、改修された1964年大会の会場を使用する例として、ハンドボールの会場となる国立代々木競技場などがあげられる。

新設される恒久的な会場は、東京湾岸部の長期的な開発にスポーツというバックボーンを与えることになる。この地区は東京の未来を映し出す場所であり、新規事業や再開発により、新たな商業施設や居住施設、娯楽施設が建設されることになる。

東京湾岸部では大会期間中、東京スカイツリーなどのランドマークを背景とした素晴らしいロケーションの競技会場がいくつか設置される。セーリングやトライアスロンなどの競技はそれを象徴するような場所で行われ、選手にとっても、観客や世界中のテレビ観戦者にとっても、理想的な環境を提供する。

2020年東京大会は、選手と彼らの努力を讃え、全ての競技を最高の観客の前で展開し、新たな競技会場と新たな精神によりオリンピック・ムーブメントを推進しながら、永続的なレガシーを受け継いでいく。